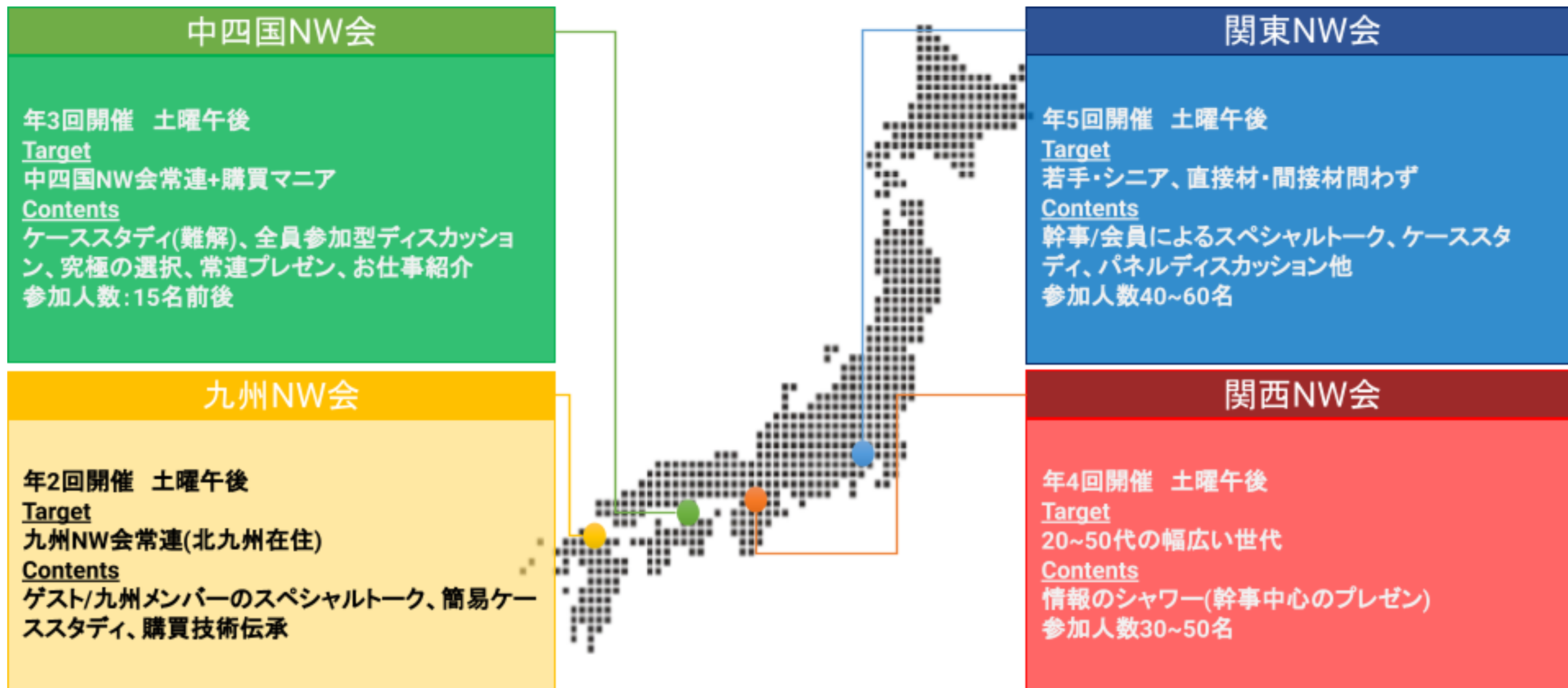




2022年7月4日 第17回_若手分科会 森山和臣

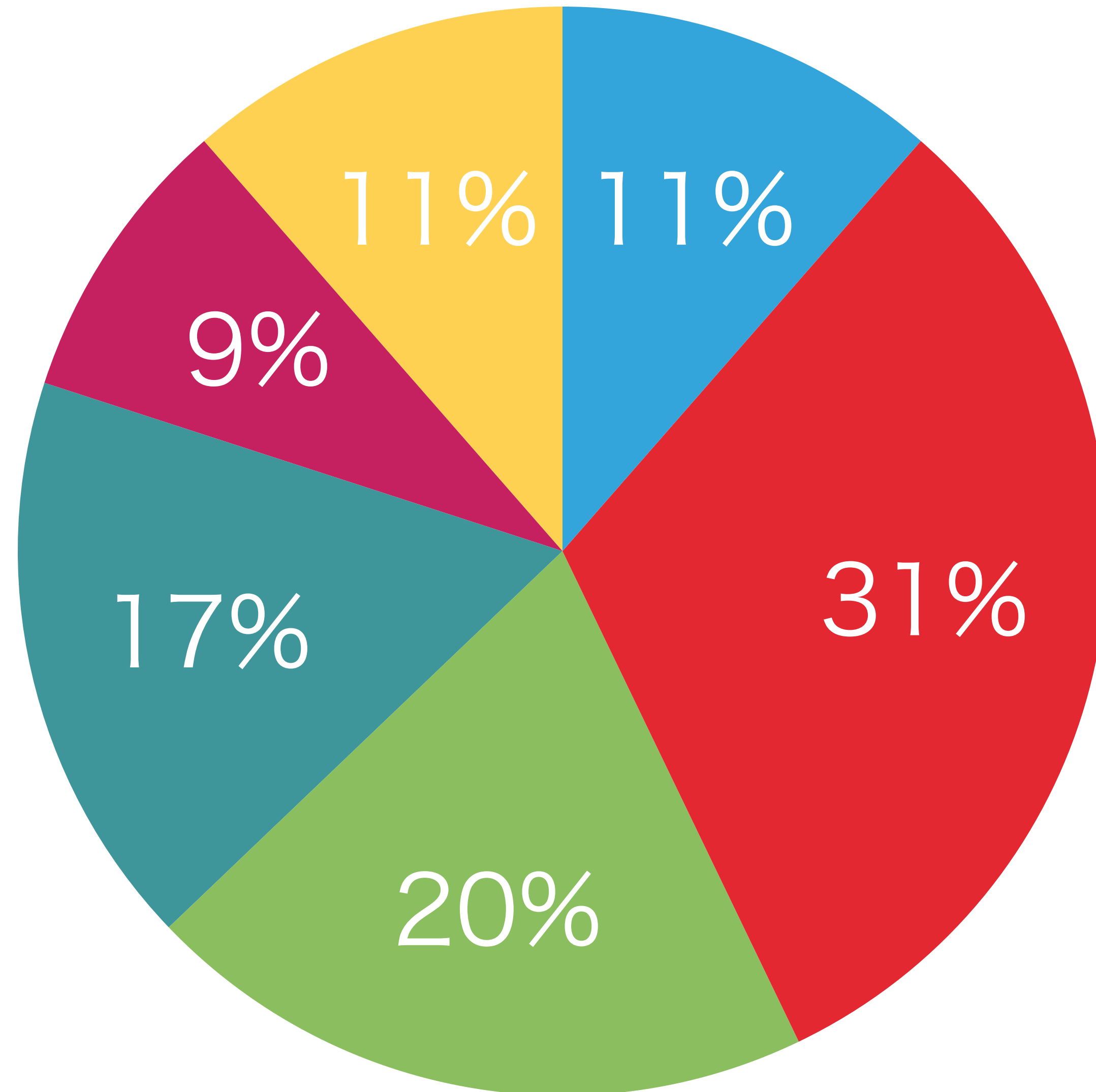
フルスタック・バイヤー という概念

若手分科会の位置づけ



今日の参加者

● 1年目 ● 2~3年目 ● 4~5年目 ● 6~10年目 ● 11~15年目 ● 16年目~

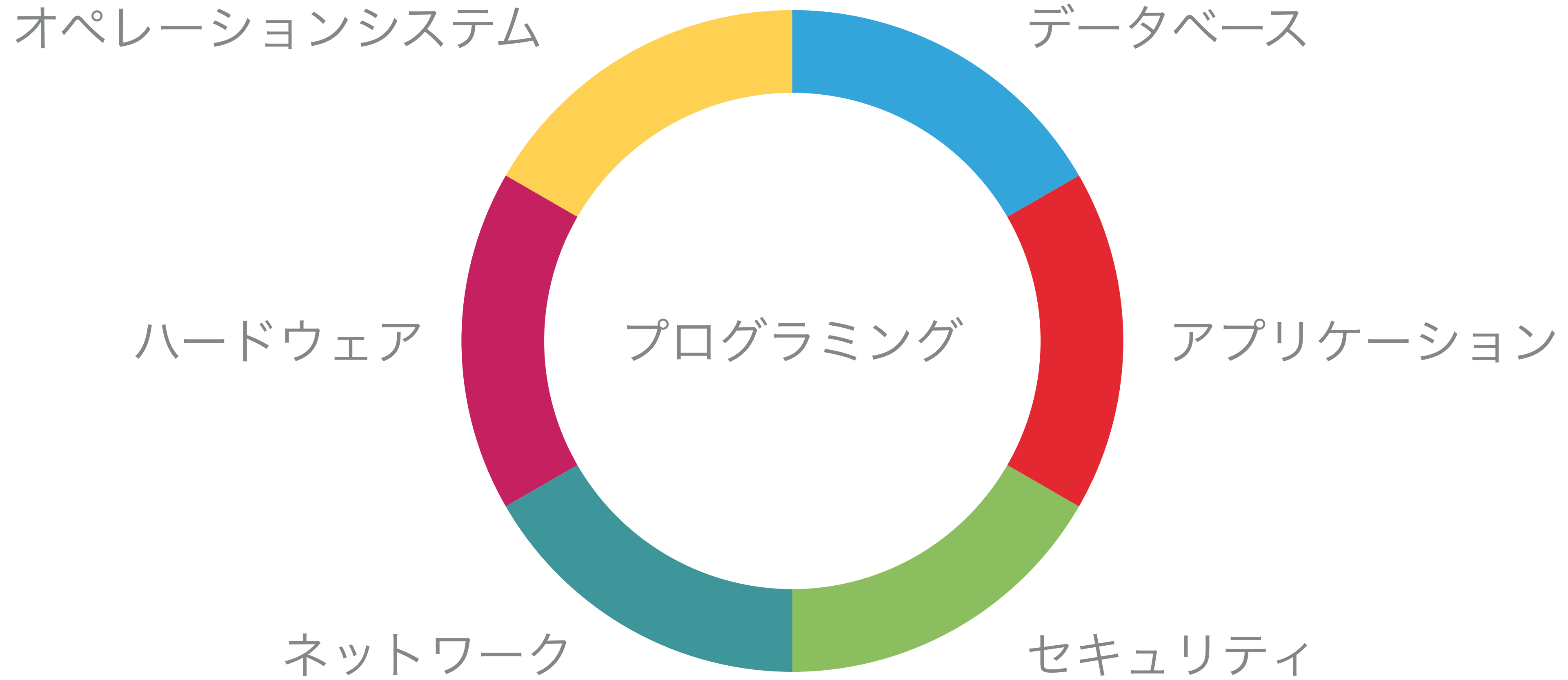


なぜこのテーマを取り扱ったのか

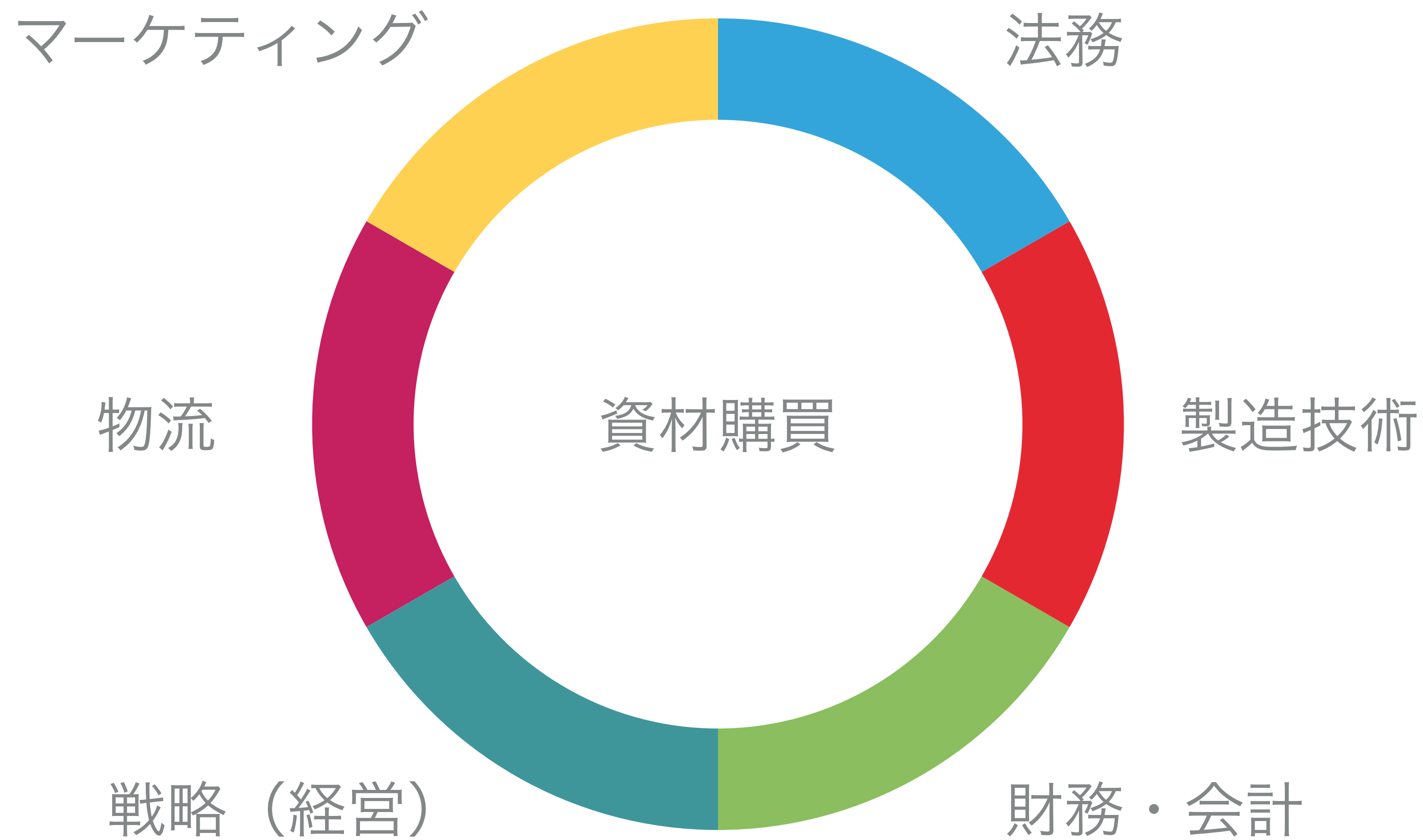
『フルスタック』という言葉に刺激されて。

- ▶ 仕事のためにプログラミングの勉強をしていたら『フルスタックエンジニア』という言葉を見つけた。調べると、何でもできるエンジニアのことを指す様子。
- ▶ バイヤーにとって『フルスタック』とはどういう状態？という疑問が生まれた。
- ▶ たぶん極めて一般的な結論に帰結するのだからなと想像はつくものの、『フルスタックバイヤー』って表現が格好いいし語ってみたいくなった。
- ▶ 冗談はさておき、バイヤー像が固まっていない若手にとっては、何でもできるバイヤーってどんなバイヤー？という疑問がありそうなので、何らかの形づけをすることで今後の学習意欲とか方向性とかを刺激できたら良いなと思った。

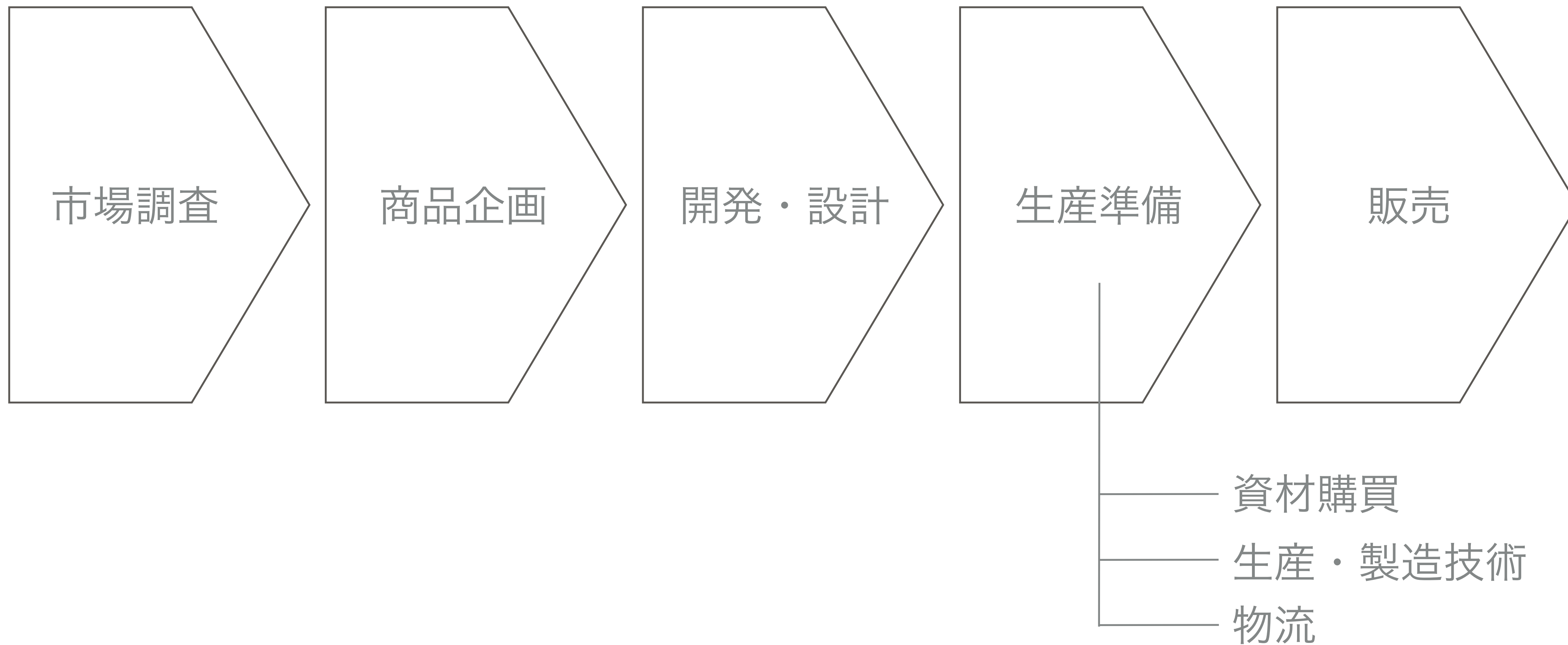
ソフトウェアエンジニアの職務領域



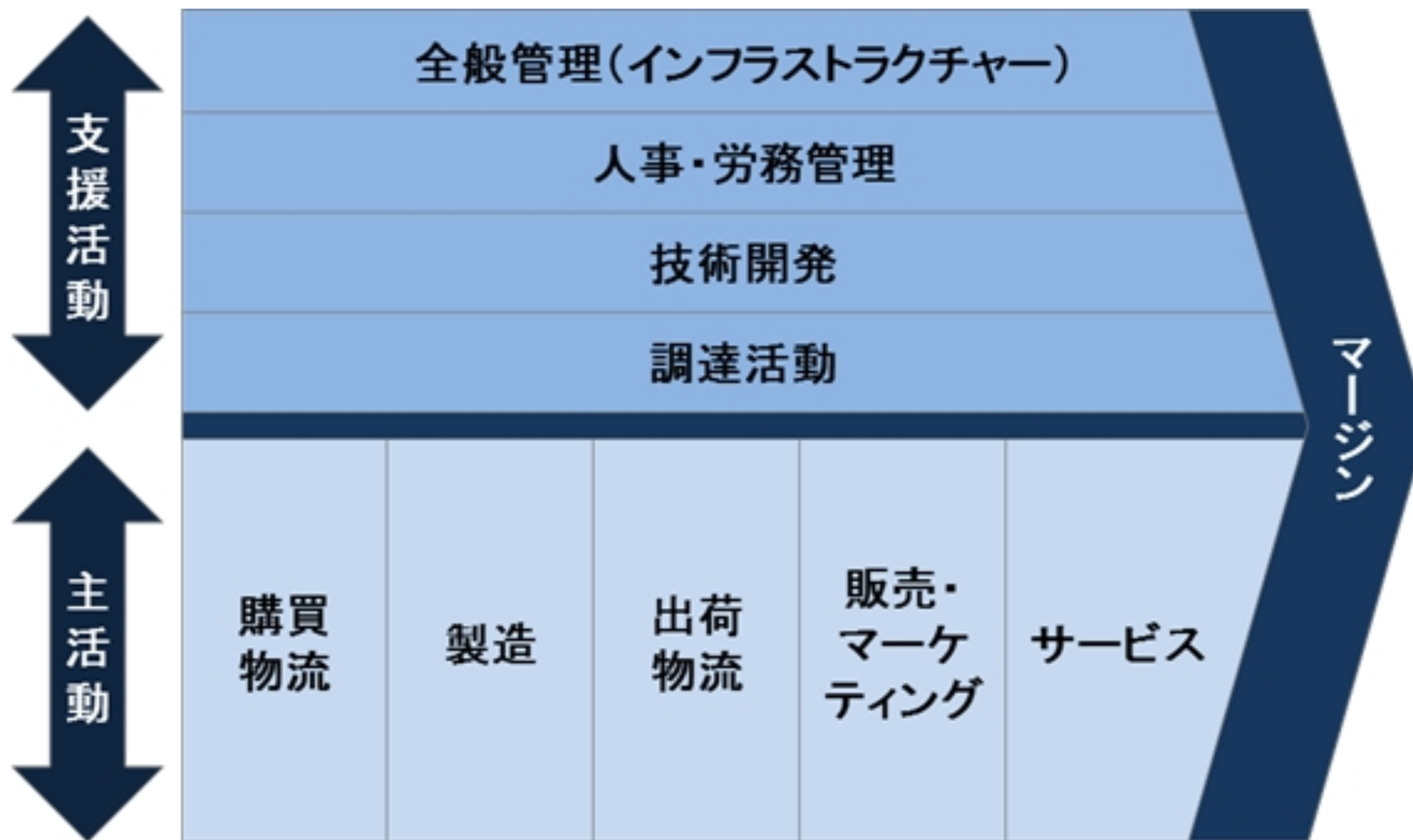
バイヤーの職務領域



一般的な仕事の流れから見た領域整理



バリューチェーンから見た領域整理



バイヤーの業務から見た領域整理

1.マーチャндаイジング
(市場調査・商品企画)

2.スペンドアナリシス

3.サプライヤ評価

4.購買戦略策定

5.開発購買・内製の決定

6. (新規の場合は) 基本契約締結

7.所要量・荷姿・集配方法の決定

8.単価査定

9.見積取得

10.注文発行

11.受入・検収

12.請求・支払

Basic =基礎 Specialized =専門 Advanced =高度

どのようなスキルが求められているのか？

BASIC

単純事務作業のレベル。

伝票の紐付きさえ理解できれば十分に対応が可能。

一方で、このレベルに留まっている資材購買部門は購買プロセスや伝票そのものが十分に成熟していない可能性が大いに考えられる。その場合には、たとえば見積条件が網羅できているか、三条書面の項目を満たした注文書が発行されているか、検収がきちんに行われているか、そもそも購買請求・発注・受入・支払が分離したセクションで行われているか等の確認事項が考えられる。これらをクリアしていくことで、次のステップに進むことができるようになる。強制的に購買プロセスを変化させるならば、ワークフローの導入も有効打になり得るが、フィットする製品を選定するための知識・経験や導入後の定着をやり切れるだけのリーダーがいないと難しい。

どのようなスキルが求められているのか？

SPECIALIZED

基本的な法的知識、購買条件、製造知識があれば（大綱領は）遂行可能。
一方で奥深さを含んでいて、会社で専任担当が生じやすい領域。
突き詰めればこれでメシを食うことも可能（かもしれない）。

私見としては、これ自体は支援活動の領域と考えている。また、座学で学びやすい領域で、これらを語る書籍は多くあり学べば学ぶほど吸収しやすい領域でもある。そのため自己の達成感は得られやすい反面、会社からは評価されにくいことがあるので、これらを土台として購買戦略の領域に踏み込んだほうが良いかもしれない。

どのようなスキルが求められているのか？

ADVANCED

ビジネスフレームワーク、プロジェクトマネジメント、数的センスが求められる。知識をもとに経験でその意味を理解することのほうが圧倒的に多くなる。

また折衝・交渉が極めて多くなり、戦う相手は社外より社内のほうが増えてくる。

この領域では、各々の実施項目はもはや出来て当たり前で、それをいかに説得力があるよう仕上げると共に、協力関係者との落とし所を探ることになってくる。したがって必要スキルは高いレベルが当然求められるとともに、精神的なタフさも持ち合わせなければ修羅場が切り抜けられなかったり、政治に巻き込まれたりする。ある意味バイヤーにとって最も苦しく、最も楽しい領域とも言える。

WILL/CAN/MUST フレームワーク

スキルを整理するのに役立つ。重なり合う部分が強みになる。



- ▶ WILL
やりたいこと。できるようになりたいこと。
- ▶ CAN
できること。
- ▶ MUST
求められていること。

WILL/CAN/MUSTで整理しましょう

BREAKOUT SESSION



今回はここまで

THANK YOU !!